光海底ケーブルシステムへの取組

世界的に、光海底ケーブルシステムの建設が活発に行われている。国際電話需要の増大に加え、人々の生活に浸透しているインターネットの急速な普及により、国際回線の需給関係にひっ(逼)迫を来すと予想されているため、活発な光海底ケーブル建設が行われている。インターネット回線需要は、電話需要に比較して安くて大容量の回線を要求する。大容量で経済的な回線を提供できるようになった技術的要因は、光ファイバ増幅中継方式の実用化である。

三菱電機技報は、光通信の特集号を発行してから4年を経て再度進展著しい光海底ケーブルシステムの小特集号を組むことになった。この小特集では、当社のWDM光海底ケーブルシステムへの取組を概観するとともに、最近の成果である光海底中継器、海中分岐装置回路、陸上光端局装置、当社で開発したWDM光海底ケーブルシステム用デバイスについて述べる。本稿では、WDM伝送方式光海底ケーブルシステムの市場動向、技術動向、当社の取組及び将来展望について述べる。

北山忠善* * 通信システム統括事業部副統括事業部長手島邦夫** * * 同事業部キャリアネットワーク統括部長